

# 岡崎市内景況調査結果(平成23年7～9月期分)

東日本大震災の影響が落ち着き、景況感は大幅に改善

調査対象：本所各部会役員・幹事事業所 450 企業

有効回答：163 企業（回答率 36.2%）

調査期間：平成 23 年 10 月 11 日～平成 23 年 10 月 18 日

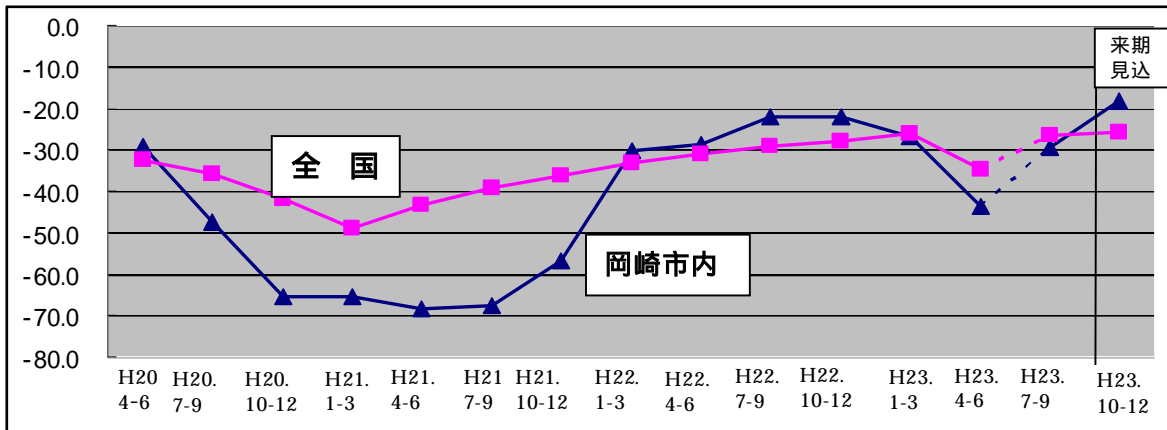
調査方法：ファクシミリによるアンケート方式

調査内容：(1) 前年同期(平成 22 年 7～9 月)と比べた今期の状況

(2) 今期と比べた来期(平成 23 年 10～12 月)の先行き見通し

業種	回答企業数	構成比
製造業	53	32.6%
建設業	33	20.2%
小売・卸売業	38	23.3%
サービス業	39	23.9%
合計	163	100.0%

## 市内の景況全体の概要



全国平均は、(独)中小企業基盤整備機構が発行する中小企業景況調査報告書より引用

(全国の商工会、商工会議所の経営指導員、及び中小企業団体中央会調査員による聞き取り調査。)

岡崎市内の今期(平成23年7～9月)の景況DIは、29.4ポイント(14.4ポイント改善)と増加に転じ、震災の影響が収束した製造業・サービス業が牽引した。

景況DIは、前期では全業種の中でサービス業が最も悪かったが、今期は製造業・サービス業が同ポイントで最もよく、改善幅はサービス業が最も大きかった。

景況DIは依然全国平均より下回っているが、来期の見込みは全国を上回るとみている。

来期(平成23年10～12月)の景況DIは、18.4(11.0ポイント改善)で、更に改善する見込み。しかし、戦後最高値を更新する円高等の影響により製造業の海外シフトが進む中、今後の先行きを懸念する声が全業界でみられた。

### 【データ：全業種】

	前年同期比(前期) (H23.4-6月期)	変化幅	前年同期比(今期) (H23.7-9月期)	変化幅	来期の見通し(来期) (H23.10-12月期)
景況	43.8	14.4	29.4	11.0	18.4
売上額	39.5	20.5	19.0	14.8	4.2
資金繰り	20.4	6.3	14.1	1.3	12.8
採算(収益)	42.0	10.1	31.9	13.5	18.4

売上額は、建設業では完成工事(請負工事)額

本報告書中のDIとは、「デフュージョン・インデックス」(景気動向指数)の略で、各調査項目について「増加」(上昇、好転)した企業割合から、「減少」(低下、悪化)した企業割合を差し引いた値である。例えば、売上額で「増加」30%、「不変」50%、「減少」20%の場合のDIは、30 - 20 = 10となる。

また変化幅は、「景況」、「売上額」、「資金繰り」、「採算(収益)」のプラス幅が増加し「」であれば企業経営にとって良好になっていることを意味する。一方「原材料仕入価格」、「製品在庫」では、変化幅が「」であれば、「増加」が増えていることから、企業経営にとっては悪化したことを意味する。

## 業種別の概要

### (1) 製造業

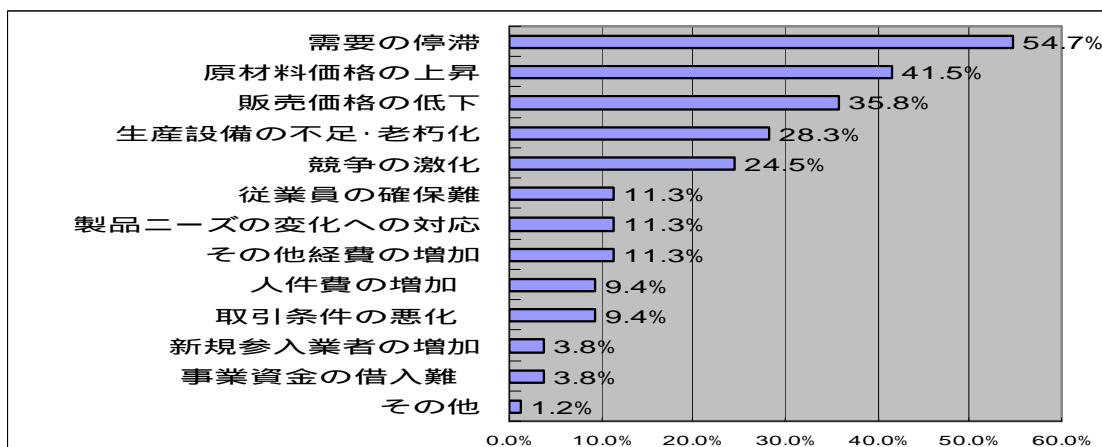
景況は 23.1 (25.9 ポイント改善)。震災の影響により寸断されていたサプライチェーンが回復し、自動車メーカーの生産体制の正常化したことが寄与しているとみられる。

来期の景況は 11.8 (34.9 ポイント改善)。震災による減産を挽回するため生産量が急激に増えていることにより、来期は更に回復を見込んでいる。しかし、急激な円高による海外シフトなど今後の先行きを懸念する声が多くみられる。

#### 【データ：製造業】

	前年同期比(前期) (H23.4-6月期)	変化幅	前年同期比(今期) (H23.7-9月期)	変化幅	来期の見通し(来期) (H23.10-12月期)
景況DI	49.0	25.9	23.1	34.9	11.8
売上額	28.0	20.5	7.5	9.5	2.0
原材料仕入価格	54.7	5.6	49.1	10.6	38.5
製品在庫	4.0	5.8	9.8	17.8	8.0
資金繰り	19.0	3.8	15.1	2.2	17.3
採算(収益)	38.0	5.3	32.7	42.5	9.8

#### 【経営上の問題点】 複数回答



その他：・円高

- ・取引先工場の一部海外移転化
- ・海外現地調達化に伴う転注の傾向

#### 【主な事業者の声 直面する経営課題・業界動向】

- ・大・中・小企業の海外移転等による空洞化懸念。需要停滞により、取引条件悪化が心配される。  
(繊維業)
- ・繊維業界に関係しており、以前から不況業種です。(繊維)
- ・円高がこのまま続くと、自動車部品、関連製造業の中小下請けにはコストアップが加速し、節電対策ではとても追いつかない経費負担の増大になり、さらなる廃業や倒産が相次ぐ恐れあり。  
(自動車部品)
- ・海外シフトの進む中で国内に残る中小企業の選別と価格破壊が益々強化される為、止まる事なく生産効率を上げねばならない。(自動車部品)
- ・40年前位は全国で1300件以上の組合員があったが現在は230件に減っており、今後もさらに半減すると見ており非常に厳しい。(食品)
- ・3.11震災後の生産の減少、円高、世界経済の状況悪化、関税UP(ブラジル)等の要因にて生産量が回復しておらず、今後さらに懸念あり。(自動車部品)
- ・大震災減産分の挽回後、2012.4月以降の自動車国内生産の落ち込みの幅が不確定です。  
(自動車部品)

## (2)建設業

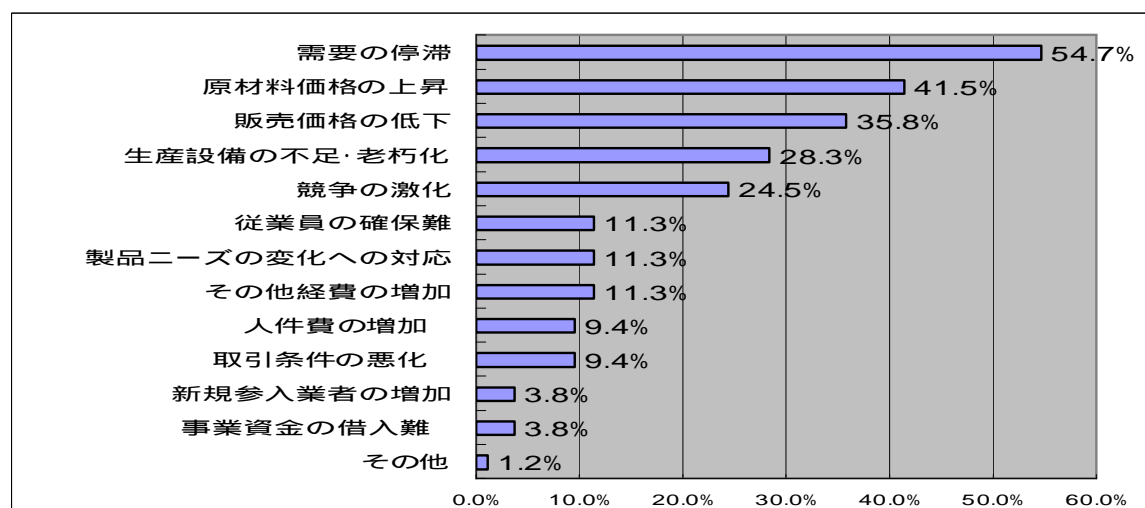
景況DIは 41.2 (2.3ポイント悪化)。前期に引き続きやや微減しており、依然として厳しい状況にある。完成工事額、受注額、採算は改善しているが、競争の激化や需要の停滞感により景況感としては改善していない。

来期DIの景況は、42.2 (変化幅0)。景況感は変化がなく、全体として来期も停滞感が続くと思われる。また急激な円高により製造業の海外シフトなどにより国内設備投資の減少なども懸念している。

### 【データ：建設業】 複数回答

	前年同期比(前期) (H23.4-6月期)	変化幅	前年同期比(今期) (H23.7-9月期)	変化幅	来期の見通し(来期) (H23.10-12月期)
景況DI	38.9	2.3	41.2	0	41.2
完成工事額	45.7	25.1	20.6	11.8	8.8
受注額(新規契約)	38.2	32.3	5.9	1.0	6.9
資材仕入価格	34.2	1.8	32.4	14.8	17.6
資金繰り	22.9	5.3	17.6	3.0	20.6
採算(収益)	47.1	11.8	35.3	2.9	32.4

### 【経営上の問題点】



その他：円高等による輸出中心の製造業の国内設備投資の凍結・減少

### 【主な事業者の声 直面する経営課題・業界動向】

- ・業界全体として需要の停滞が顕著である。ストーンフェアを開催に業界の活性化を期待する。(石工業)
- ・設備投資が底打ちした感があるが、まだまだ弱い。復興需要で自動車中心に生産が増加してきたが欧米景気の悪化、円高進行が心配。(建設業)
- ・東日本大震災後、従来の耐震を中心とするBCP対応に加え液状化・津波対策・天井落下防止等の相談が増加。(建築業)

### (3)小売・卸売業

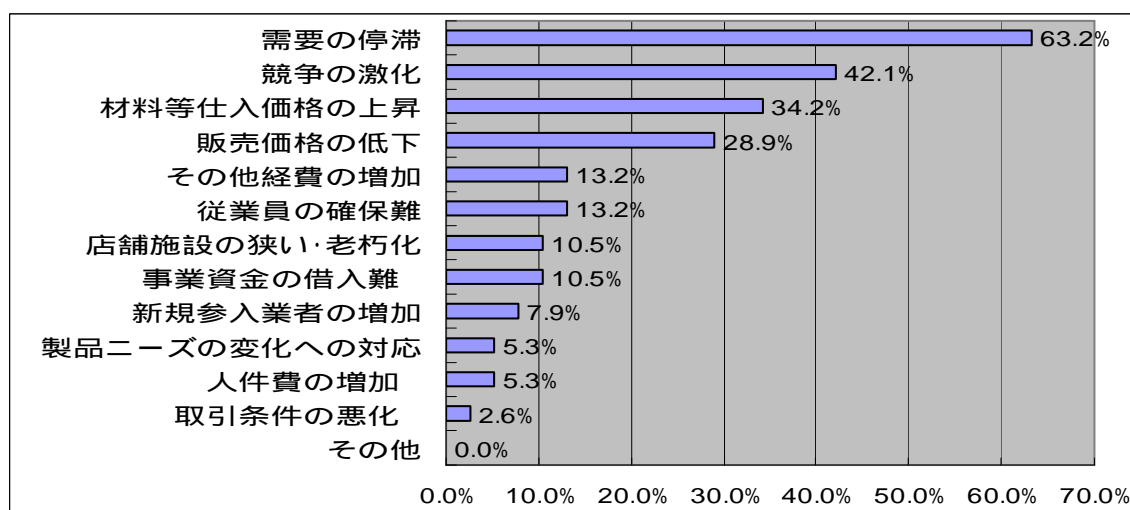
景況DIは 34.2 (変化幅は0)。売上はやや改善されたが、商品仕入価格が上昇していることから採算は悪化しており、景況全体の停滞感がみられた。

来期の景況DIは、23.7 (10.5ポイント改善)。製造業の生産体制も戻りつつあることから、震災による自粛ムードが落ち着き、売上、採算が大きく改善するとみている企業が多い。

#### 【データ：小売・卸売業】

	前年同期比(前期) (H23.4-6月期)	変化幅	前年同期比(今期) (H23.7-9月期)	変化幅	来期の見通し(来期) (H23.10-12月期)
景況DI	34.2	0	34.2	10.5	23.7
売上額	27.0	5.9	21.1	5.3	15.8
商品仕入価格	26.3	23.7	50.0	15.8	34.2
商品在庫	15.8	18.4	2.6	23.7	21.1
資金繰り	17.9	7.1	10.8	0	10.8
採算(収益)	33.3	8.8	42.1	13.2	28.9

#### 【経営上の問題点】 複数回答



#### 【主な事業者の声 直面する経営課題・業界動向】

- ・紙製品、セロテープ、クラフト等石油製品の値上げでも全体はデフレが続いている。  
(事務用品販売)
- ・輸入飼料原料が90%を占めるため円高の恩恵を受けている。(飼料販売)
- ・我々の業界も一段と厳しくなり廃業する店舗もあり、先行きが不透明である。(呉服販売)
- ・需要減退・供給過多。流通上の価格差(メーカー出荷価格)が大きな問題となっている。  
(石油販売)

## (4) サービス業

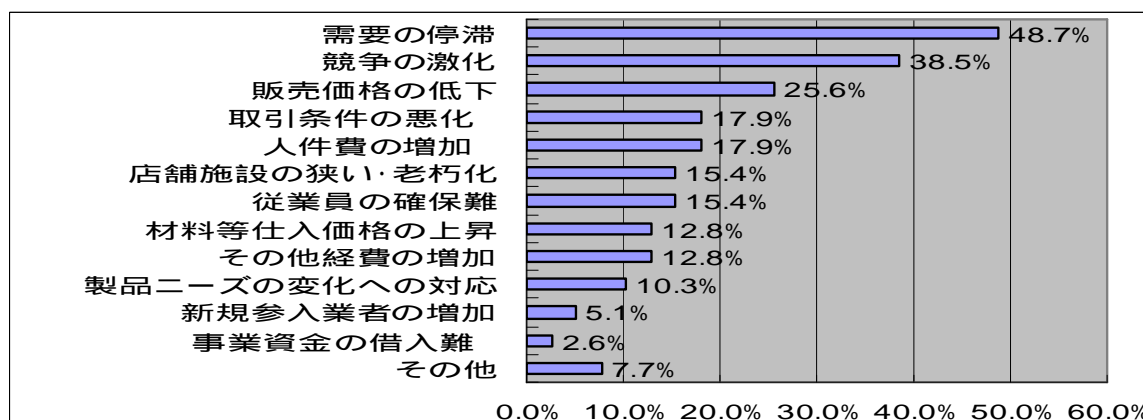
景況DIは 23.1 (34.0ポイント改善)。売上、利用客、採算の全てが改善しており、景況も改善した。

来期の景況DIは、2.6 (25.7ポイント改善)。扱う商品・サービスによって多少ばらつきがあるが、全体的には来期も引続き、売上・利用客数・採算が全て改善し景況も改善すると予想している。

### 【データ：サービス業】 複数回答

	前年同期比(前期) (H23.4-6月期)	変化幅	前年同期比(今期) (H23.7-9月期)	変化幅	来期の見通し(来期) (H23.10-12月期)
景況DI	57.1	34.0	23.1	25.7	2.6
売上額	65.7	34.9	30.8	30.8	0
利用客数	44.1	28.7	15.4	15.4	0
資金繰り	22.9	10.1	12.8	10.2	2.6
採算(収益)	37.1	19.2	17.9	10.0	7.9

### 【経営上の問題点】



その他：・駐車場の不足

・ベテラン従業員の退社、戦力補強、社員教育、新設備の活用

### 【主な事業者の声 直面する経営課題・業界動向】

- ・前期と同じ需要の停滞と競争の激化。非常に厳しい状況(不動産業)
- ・不動産会社の需要があるが外食業は需要・売上・収益全て悪化している(不動産・飲食業)
- ・中国人企業の店が周りに林立しじわじわと売上に影響を与える。地元商店街のさびれ。  
(飲食業・中華料理)
- ・前期と同じ需要の停滞と競争の激化で非常に厳しい(不動産業)
- ・業界は他にも良く見受けられる二極化が進んでいる。仕事のある所に仕事が集まる。今の所良い方の極に分布しているかもしれないが「つとめてやむな」をモットーに努力してこのポジションを更に上方分布にもって行きたい(デザイン業)
- ・再度力を入れ直した合宿教習が好調。今後頭打ちも考えられる。入校生の申込は直前型が多くなり、先を読むのが難しい(自動車訓練校)
- ・秋の行楽シーズンは震災の影響が少ない感じである(旅行業)